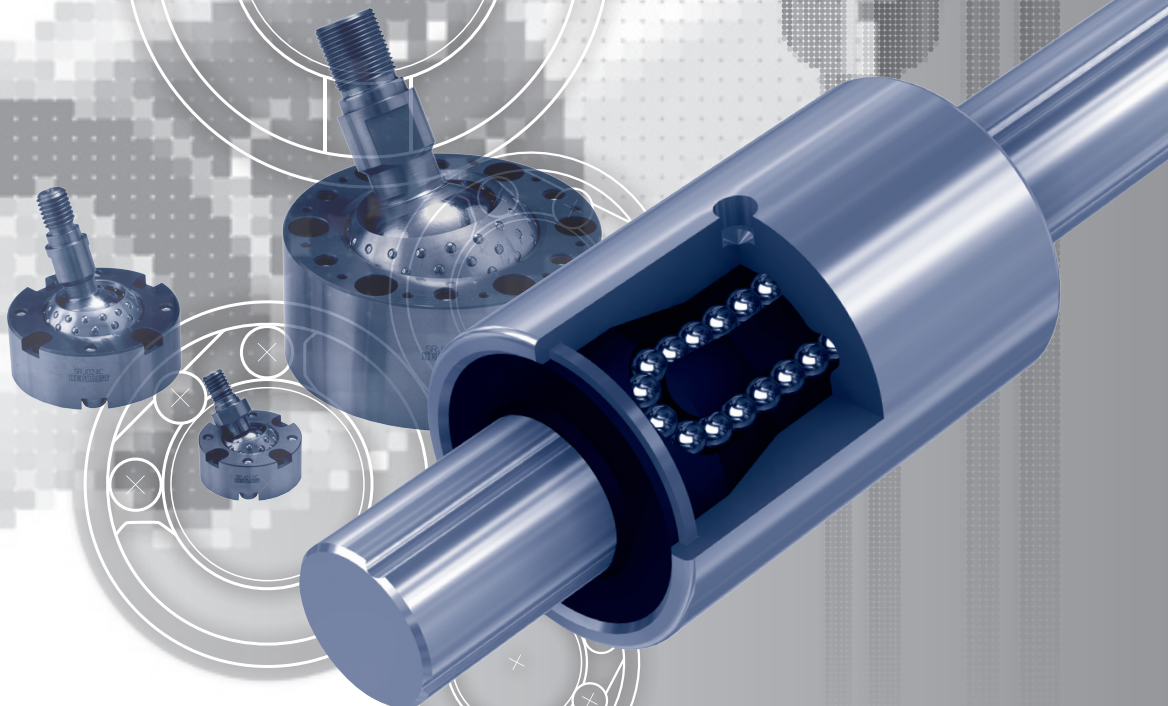


HEPHAIST®

それは価値を創造する個性ある集団です。

第47期 報告書

2008年4月1日~2009年3月31日

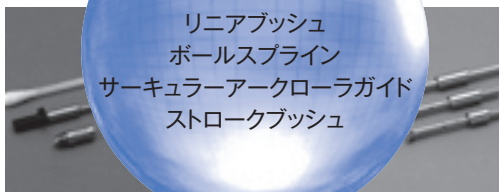


47th 事業概要 Business Outline

当社は、1962年(昭和37年)の創業以来、リニアモーションベアリングの専門メーカーとして、常に新しいテクノロジーを追求し、多様化するニーズに応えるべき技術力と創造力により高品質・高付加価値製品を提供してまいりました。これからも長年蓄積した固有技術を活かし、事業の柱となるリニアベアリングなどのリニアモーション、ポジショニングステージなどのシステム製品及びレース用エンジン部品製造に要求される超精密加工の3つの事業領域で企業価値の拡大を目指してまいります。

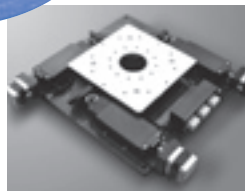
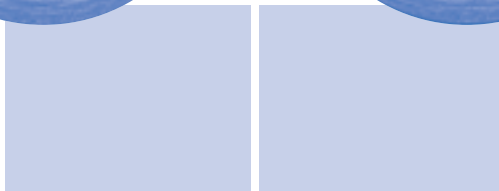
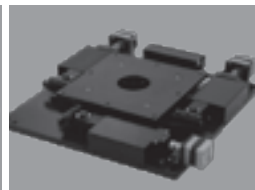
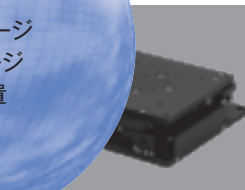
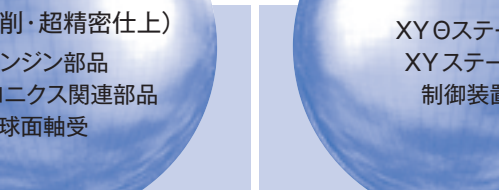
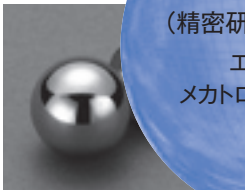
リニアモーション

リニアブッシュ
ボールスプライン
サーキュラーアークローラガイド
ストロークブッシュ



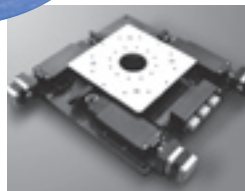
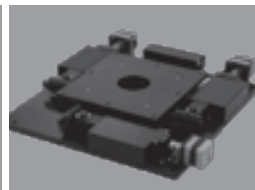
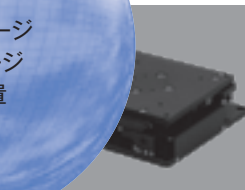
超精密加工

(精密研削・超精密仕上)
エンジン部品
メカトロニクス関連部品
球面軸受



システム製品群

XYθステージ
XYステージ
制御装置



目次

事業概要	1	トピックス	5
株主・投資家の皆様へ	2	株式の状況	6
財務情報	3	会社の概要	6



株主・投資家の皆様へ

代表取締役社長 尾崎浩太

Message

皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。当社第47期報告書をお届けするにあたり、平素のご支援を深く感謝し、ご挨拶申し上げます。

当事業年度におけるわが国経済は、米国に端を発した金融危機が世界各国の実体経済に波及し、年度後半に入って輸出企業を中心に企業収益は大きく落ち込み、雇用情勢の悪化による個人消費の低迷など景気は一段と深刻な状況となりました。

このような経済環境の下で、当社は営業発の既存製品から派生した新製品開発及び製品改良を積極的に行い、既存市場・既存顧客への新たな提案及び新規市場・新規顧客の開拓を推進し、売上利益の確保に全力を傾注してまいりました。

しかしながら、電機・自動車関連をはじめとする幅広い業種での企業収益悪化に伴う設備投資減少等の影響を受け、第4四半期以降受注環境は急激に悪化し、売上高は1,863,847千円(前年同期比17.3%減)となりました。また、利益面につきましても原価低減と固定費削減など経営合理化策を一段と強力に推し進めましたが、急激な売上減少による落ち込みを補えず、経常利益は89,771千円(同46.4%減)となり、また、当期純利益は人員削減による経営合理化に伴う特別退職金及びたな卸資産除却等48,987千円を特別損失に計上したことにより、11,192千円(同88.8%減)となりました。

品目別の売上状況は、主力製品でありますリアベアリングにつきましても、設備投資減少の影響により各種産業用機械メーカー等の需要が大幅に減少し、売上高は1,156,940千円(前年同期比20.3%減)となりました。エンジンパーツにつきましては、モータースポーツ界の急激な環境悪化に伴い各企業のレース参戦の撤退・縮小のおおきくを受け、第4四半期以降レース用エンジン部品の受注が大幅に減少し、売上高は516,099千円(同22.9%減)となりました。

ポジショニングステージにつきましては、プリント基板製造装置向けステージが好調に推移し、売上高は190,807千円(同44.8%増)となりました。

次期の見通しにつきましては、世界的な景気後退局面の早期回復は期待しがたく、産業用機械、半導体製造装置関連及び自動車関連業界など当社の主要ユーザーを取り巻く事業環境も引き続き厳しい状況で推移していくものと予想されます。

売上高につきましては、948,924千円(前年同期比49.1%減)と大幅に減収となる見込みであります。

利益面では、徹底したコストダウンや固定費削減など収益改善をさらに推し

進めるものの、減収の影響を補えず、営業利益、経常利益、当期利益とも損失となる見込みであります。

なお、本年度(第48期)は、現時点の業績予想は損失の計上を余議なくされる見通しであることから、誠に遺憾ながら無配とさせていただきます。

今後もヒールハイト精工は、価値を創造する個性ある集団として、創業以来固有技術と独自性を生かして、新しい時代の要求にお応えしてまいります。

創業精神

「挑戦してこそ好機が生まれる」高度な技術の探求とファインメカニカルへの飽くなき情熱が私たちの誇りです。「義の心」をもって真摯に応え、「新たな価値の創造を通じて、社会に貢献できる企業を目指す」「社員共生」「安定成長」という3つの経営基本方針をもとに、創造開発型企業を目指していく所存です。

価値を創造する個性ある集団

21世紀の多様で高度なニーズに対して、「ヒールハイトならではの」新しい感覚で挑む個性ある集団でありたいと、考えております。常に一歩先の技術革新に挑戦し、社会に求められること、技術力と創造力による貢献をして参りたいと存じます。

終わらぬ挑戦、ついでない情熱

当社は創業以来、一貫して直線運動機構の研究開発に取り組み、独自の地位を築いて参りました。当社の強みは、設計思想でもある「軽薄短小」であります。今後はさらに、固有技術でもあります球面加工技術等を駆使して、「終わらぬ挑戦」を続けてまいります。

また直動ベアリング以外の新たな製品開発にも「ついでない情熱」を燃やしながら続けてまいります。

未来から押し寄せる無限の波、新時代の多様で高度なニーズに限りなくチャレンジしてまいります。

株主・投資家の皆様には、一層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

2009年6月

47th 財務情報 Financial Statements

貸借対照表

単位：千円

科目	47期 平成21年3月31日	46期 平成20年3月31日
資産の部		
流動資産	1,817,716	1,426,618
現金及び預金 ①	968,733	207,901
受取手形及び売掛金 ②	446,347	716,114
たな卸資産 ③	376,938	476,574
繰延税金資産	21,704	17,615
その他	4,860	8,980
貸倒引当金	△868	△568
固定資産	2,406,314	2,504,617
有形固定資産 ④	2,272,004	2,365,444
建物及び構築物	979,944	1,049,524
機械装置及び車両運搬具	193,205	210,507
工具、器具及び備品	35,349	41,907
土地	1,063,504	1,063,504
無形固定資産	3,438	5,264
投資その他の資産	130,870	133,908
投資有価証券	3,998	4,166
繰延税金資産	102,889	108,496
その他	30,151	21,245
貸倒引当金	△6,168	—
資産合計	4,224,030	3,931,236

科目	47期 平成21年3月31日	46期 平成20年3月31日
負債の部		
流動負債	418,368	603,325
支払手形及び買掛金	153,744	362,251
1年以内返済予定長期借入金	203,757	112,760
未払法人税等	4,000	48,000
その他	56,867	80,314
固定負債	884,136	394,752
長期借入金 ⑤	608,863	127,700
退職給付引当金	34,753	34,733
役員退職慰労引当金	238,760	232,318
長期リース資産減損勘定	1,759	—
負債合計	1,302,505	998,078
純資産の部		
株主資本	2,921,525	2,935,313
資本金	717,495	717,495
資本剰余金	664,455	664,455
利益剰余金	1,539,575	1,553,363
評価・換算差額等	—	△2,155
その他有価証券評価差額金	—	△2,155
純資産合計	2,921,525	2,933,157
負債純資産合計	4,224,030	3,931,236

貸借対照表のポイント

① 現金及び預金の増加は、銀行より資金調達をしたことによるものです。

② 売掛金の減少は、売上の減少によるものです。

③ たな卸資産の減少は、仕掛品の減少及び原材料を会計方針の変更により当事業年度より「棚卸資産の評価に関する会計基準」を適用し収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定したことによるものです。

④ 有形固定資産の減少は、減価償却によるものです。

⑤ 長期借入金の増加は、当面の運転資金のため銀行より資金調達をしたことによるものです。

損益計算書

単位：千円

科目	47期 平成20年4月1日から平成21年3月31日まで		46期 平成19年4月1日から平成20年3月31日まで	
売上高	1,863,847		2,252,435	
売上原価	1,256,463		1,438,438	
売上総利益	607,384		813,997	
販売費及び一般管理費①	514,569		642,663	
営業利益	92,814		171,333	
営業外収益	2,501		2,101	
営業外費用	5,544		5,841	
経常利益	89,771		167,593	
特別利益	—		5,322	
特別損失②	48,987		18,544	
税引前当期純利益	40,783		154,371	
法人税、住民税及び事業税	29,540		55,808	
法人税等調整額	50		△1,385	
当期純利益	11,192		99,948	

キャッシュ・フロー計算書

単位：千円

科目	47期 平成20年4月1日から平成21年3月31日まで		46期 平成19年4月1日から平成20年3月31日まで	
営業活動によるキャッシュ・フロー①	265,024		338,899	
投資活動によるキャッシュ・フロー②	△48,987		△132,855	
財務活動によるキャッシュ・フロー③	546,791		△305,244	
現金及び現金同等物の増減額	762,828		△99,201	
現金及び現金同等物の期首残高	149,678		248,879	
現金及び現金同等物の期末残高	912,507		149,678	

損益計算書のポイント

- ①販売費及び一般管理費の減少は、主に研究開発費の減少によるものです。
- ②特別損失の増加は、主に経営合理化に伴う特別退職金を支払ったことによるものです。

キャッシュ・フロー計算書のポイント

- ①営業活動によるキャッシュ・フローの減少は、仕入債務が減少したことによるものです。
- ②投資活動によるキャッシュ・フローの増加は、有形固定資産の取得によるものです。
- ③財務活動によるキャッシュ・フローの増加は、長期借入によるものです。

株主資本等変動計算書のポイント

純資産の減少は、利益剰余金の減少によるものです。

株主資本等変動計算書

単位：千円

科目	47期 平成20年4月1日から平成21年3月31日まで		46期 平成19年4月1日から平成20年3月31日まで	
株主資本				
資本金				
前期末残高	717,495		717,495	
当期変動額合計	—		—	
当期末残高	717,495		717,495	
資本剰余金				
前期末残高	664,455		664,455	
当期変動額合計	—		—	
当期末残高	664,455		664,455	
利益剰余金				
前期末残高	1,553,363		1,497,129	
当期変動額合計	△13,787		56,233	
当期末残高	1,539,575		1,553,363	
株主資本合計				
前期末残高	2,935,313		2,879,079	
当期変動額合計	△13,787		56,233	
当期末残高	2,921,525		2,935,313	
評価・換算差額等				
その他有価証券評価差額金				
前期末残高	△2,155		677	
当期変動額合計	2,155		△2,832	
当期末残高	—		△2,155	
評価・換算差額等合計				
前期末残高	△2,155		677	
当期変動額合計	2,155		△2,832	
当期末残高	—		△2,155	
純資産合計				
前期末残高	2,933,157		2,879,757	
当期変動額合計	△11,631		53,400	
当期末残高	2,921,525		2,933,157	

展示会に出展

2008年6月に東京ビックサイトで開催された第12回機械要素技術展及び2008年12月に幕張メッセで開催されたSEMICON JAPAN2008において、これまで円筒直動軸受専門メーカーとして培われた固有技術を活かした高精度・高品質の新開発製品を発表いたしました。



業績回復のための重点方針

当社は世界的な経済危機の影響を受け売上が激減する中で、受注確保を第一の課題と認識し積極的な受注活動、新規顧客の開拓を強力に推進すると同時に、生産体制の見直し、固定費、変動費の削減などを強力に推し進め業績の早期回復に努めてまいります。重点方針は以下のとおりであります。

- ① 円筒直動軸受専門メーカーとして円筒直動軸受製品に関わる技術、製品及びノウハウの更なる蓄積強化
- ② 顧客満足度向上のために、営業・技術・製造の三位一体体制の更なる強化
- ③ 自社の強みと顧客ニーズの接点を重視した新製品の開発及び市場投入
- ④ 将来の成長を支える人材の育成

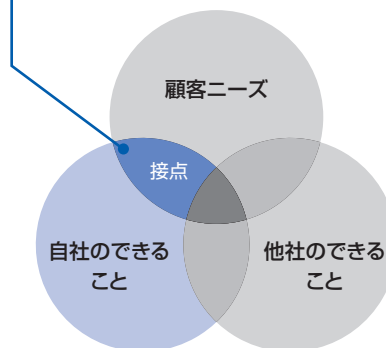


自社の強みと顧客ニーズの接点

「自社のできること」と「顧客が求めること」の重なる部分がビジネスを展開できる部分です。その中でも特に「競合他社にできること」と重ならないスポットこそ競争優位性のあるOne and Onlyの領域です。

One and Only

顧客に対して「自社にしかできない価値を提供できないか」をよく考え実行する。



47 株式の状況 Stock Information

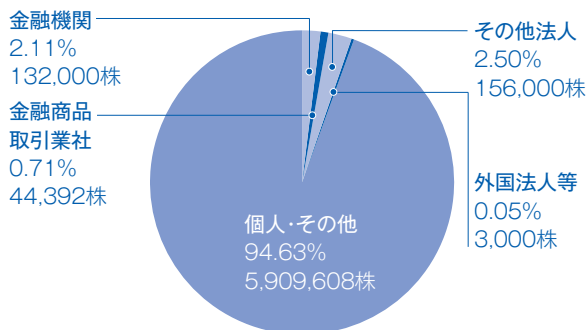
株式の状況 (2009年3月31日現在)

- 会社が発行する株式の総数……………18,720,000株
- 発行済株式の総数……………6,245,000株

大株主 (2009年3月31日現在)

株主名	持株数(千株)	出資比率(%)
尾崎 久壽彌	1,429	22.88
尾崎 浩太	810	12.98
尾崎 文彦	708	11.34
日本生命保険相互会社	100	1.60
夏 恒	81	1.29
小泉 秀樹	74	1.18
土田 浩司	74	1.18
松山 史朗	70	1.12
ヒーハイト精工社員持株会	64	1.02
村上 潔	54	0.86

所有者別株式数 (2009年3月31日現在)



47 会社の概要 Corporate Data

会社の概要 (2009年3月31日現在)

- 社名 ヒーハイト精工株式会社
- 本社 〒350-1151
埼玉県川越市今福580番地1
- 埼玉工場 〒350-1151
埼玉県川越市今福580番地1
[敷地面積16,677m² 建物面積7,589m²]
TEL 049-273-7000(代表)
FAX 049-273-7001
- 秋田工場 〒010-1653
秋田県秋田市豊岩小山字下田454番地
(豊岩工業団地内)
[敷地面積36,292m² 建物面積4,525m²]
TEL 018-828-0111
FAX 018-828-2231
- 設立 昭和37年7月19日
- 資本金 717,495,000円
- 従業員数 60人

役員 (2009年6月26日現在)

取締役会長	尾崎 久壽彌
代表取締役社長	尾崎 浩太
専務取締役	尾崎 文彦
取締役	柴田 幸子
取締役	小川 好文
常勤監査役	済木 條平
監査役	富岡 昭
監査役	北川 尚



<http://www.hephaist.co.jp/>

株主メモ

- 事業年度 4月1日～翌年3月31日
- 期末配当金受領株主確定日 3月31日(中間配当を行う場合、毎年9月30日)
- 定時株主総会 毎年6月
- 株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社
- 特別口座の口座管理機関 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
〒137-8081
東京都江東区東砂七丁目10番11号
- 同連絡先 0120-232-711(フリーダイヤル)

- 電話 0120-232-711(フリーダイヤル)
- 上場証券取引所 ジャスダック証券取引所
- 公告の方法 電子公告の方法により行う。
- 公告掲載URL <http://www.hephaist.co.jp>

(ただし、電子公告によることができない事故、その他やむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。)

(ご注意)

1. 株券電子化に伴い、株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合わせください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
2. 特別口座に登録された株式に関する各種お手続きに関しましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてお取次ぎいたします。
3. 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

※本誌には、ヒーハイト精工の将来に関連する記述があります。この前提及び将来予測の記述には、経営を取り巻く環境の変化などによる一定のリスクと不確実性が含まれていることにご留意ください。

ヒーハイト精工株式会社

JASDAQ

証券コード6433